

会議名	釜石復興まちづくり委員会		整理番号	
会議内容	回数	第 3 回	方式	会議
	日時	平成 23 年 7 月 8 日 (金) 13:00 ~ 15:00		
	場所	クリーンセンター2 階会議室		
出席者	委員	委員名簿		

1. 開会

開会

2. あいさつ

2.1 釜石市長挨拶

- ・仮設住宅で未完成なのは平田、松倉だが 10 日後に完成する。6 月中の仮設入居完了の約束は果たせなかったが、7 月中に仮設入居完了させる。
- ・国のモデル事業としてのガレキ処分に取り組んでいる。7~8 月にかけて処分を促進する。
- ・まちづくりは、制度、財源などが不透明。国に早く基本方針を作ってもらいたい。国、県への要望活動を行っている。

2.2 小泉委員長挨拶

- ・行政と市民が一体となって進めていきたい。対策が遅れると釜石から市民や企業が戻らなくなる。
- ・これからは県との調整も必要。

3. 議題

3.1 岩手県東日本大震災津波復興基本計画案の説明（説明者：岩手県小野特命課長）

（岩切委員）ガレキ処分について、H26.3 と言っているが、H23 中にどうするかが重要。食中毒が発生しては風評被害に発展する。

（長谷川委員）よくまとまっているが特徴、インパクトがない。産業を誘導するための特区が必要。被害を逆手に取って、尋常ではできないことが実現できるかもしれない。例えば、海洋科学センター誘致とメタルハイドレートの研究など。そのためには特区が必要と思料している。

（岩手県小野課長）岩手県も 9 つの特区を国に提言要望中。特に規制緩和に関して継続検討している。

（野田市長）ガレキ処分について、釜石市は市が実施、他市町村は県代行と違いがある。県内の他市町村も市町村外に出して処分していない。ガレキを右から左に移しているだけ。莫大な量を処分する手順が国から示されていない。手探りの状態。国のモデル事業などにも取組み、一刻も早くガレキ処分を完了したい。特区については、市町村も積極的に取組み、県に支援を求めていく。

（安久津委員）財源に関して考えを聞きたい。

（岩手県小野課長）4 月、6 月に補正予算を措置した。岩手県の基金を取り崩して



補正している。市町村や県財政で対応できるものではなく、岩手県知事も復興構想会議などで財政措置の要望をしているところ。交付税措置、裏負担の軽減など。

(小田島委員) 1F 部分が店舗、2F 住居の場合、1 円も支援がなかった。商業者にとって使い勝手のよい補助金をお願いしたい。いろいろ補助金はあるが、制約条件がそれぞれある。商業者は新日鉄関連企業、水産加工業の波及で成立。水産加工業者はガレキ撤去等で困難に遭っている。水産加工業者にも手厚い補助をお願いしたい。

3.2 第 1 回復興まちづくり委員会アドバイザー会議からのアドバイス及び第 2 回復興まちづくり懇談会概要(説明者:釜石市総合政策課長)

(長谷川委員) なりわい、生活基盤、安全は一体。別々に考えても復興にならない。複合的に考える必要を感じる。例えば、水産加工施設の上に避難施設整備する等も可能。水産加工業者の経済面や土地利用調整面で負担軽減になるのではないか。

(小泉委員長) 意見も踏まえ、これから検討を深めていく。

3.3 釜石市復興まちづくり基本計画骨子案(説明者:釜石市総合政策課長)

(大瀧委員) ものづくりで釜石の街が形作られたことが本計画に謳われていることを評価する。自分もそれを言いたかった。橋野高炉の世界遺産登録は、観光ではなく、歴史文化の項目に掲げるべき。東部地区のまちづくりについて、市役所立地場所を只越と想定しているのか。

(野田市長) 市役所の移転について、天神町、鈴子に候補を絞り、議会採決の目前で 3.11 発災により、決定に至らず未定になっている。基本計画、実施計画を決定する過程で、地域会議などで決めていきたいが、通常と異なり短時間で決めないといけない。東部地区を釜石市の中心市街地とする意思を持って自分は説明してきた。東部地区の街は 7 割近くが解体意向で、今のままでは難しいことを認識している。橋野高炉の位置づけは精査する。

(岩切委員) 中尊寺仏教文化思想研究会佐々木先生の講演を受講した。平泉は観光ではなく、仏教文化として位置付けたことがポイントと伺った。橋野高炉は、学術的価値を軸に位置付けることが重要。

(大瀧委員) 市役所を鈴子に移転していれば、今回とは被災状況が違ったとの意見がある。東部地区は商業・文化の地域。文化会館と避難施設の複合施設などで早期に再開すべき。只越、天神に市役所があると想定外の被害で市役所が孤立することを懸念。紆余曲折はあったが、鈴子は移転先として整備されたものと思料する。長期のまちづくりとして、市役所は安全な場所に置くべきで消防もセットにすべき。

(内田委員) 釜石市のエネルギーコストは高い。クリーンな LNG の導入を盛り込むべき。オランダの海拔 0m 地帯、ロンドンのテムズ川など、1,000 年の規模で計画。本計画の基本目標の災害に強いまちづくりも同じような視点を忘れずに計画してほしい。

(野田市長) 災害に強いまちづくりを原点に考えている。クリーンエネルギーについて、バイオマス等にも取り組む。LNG も議会からも取り組むべきと指摘されている。企業を誘致するにも物流コスト、エネルギーコストの面で競走不利になっている。エネルギーコストの低減も必要。クリーンエ



エネルギー、スマートグリッドにも取り組む。北九州からの技術移転も考えている。

(長谷川委員)より具体的な案を示してもらいたい。馬鹿だと思われても構わないという気概が必要。漁協が水産振興の牽引者たりうるのか？幅を広げてものごとを考えるべき。

(多田委員)鉄道は防浪機能だけでない。地域全体のまちづくりと一体となって進めたい。安全確保最優先に、避難経路、防災計画などとの調整を釜石市と協議したい。

3.4 その他

(建設部長)建築規制に関する広報について周知。

4. 閉会

以上

